

三朝革新懇の ある小春日和



「いちまいのおさら」全景

去る3月24日、定例の会合を終えた三朝革新懇のメンバーは、次期衆院選挙予定候補の岡田正和さんとしんぶん赤旗記者の岩見幸徳さんを加えて、イタリア料理レストラン「いちまいのおさら」に向かった。

両脇の山に点々と咲いている桃色がかったこぼし(?)の花に春の息吹を感じながら、県道を三徳川沿いにさかのぼって三徳山の鳥居まであと一息といったところで、道路から一段下がったところに、古民家と太陽電池パネルが目に入った。道沿いの駐車場から下りて行くと、正面の金網

小屋から元気な鶏の鳴き声に続いて、オーナーシエフの幸田(こうた)直人さんが半袖姿で迎えてくれた。早速、手作り感の強い厨房・客室に案内された。調理・兼暖房用の大きな丸型薪ストーブとともに客席は10個程。テーブルの傍らには解体の産物である大きな鹿の角が3、4本置いてあった。

ランチは甘い棒状の人参の入った野菜スープに始まり、独特の木工もしくは瀬戸物の平皿の上に、幅広の手打ち生パスタ、揚げパスタを中心に猪肉のハム、サラダ、朝とれたシイタケを含む焼き野菜などのご馳走が手際よく並んでいた。これらの品々はいずれも、新鮮な食材で旨味を出すといった点で獨創性に溢れている。大変おいしかった。また、自然を学び自然と生きる「自給生活をめざす幸田さんの信条の反映だろうと思う。山間部の小さなイタリアンレストランで「本当の美味しさ」とともに「食の奥」を垣間見た気がした。

なお、後日訪問して、創立間もない三朝革新懇の説明とともに「革新懇ニュース」をお勧めしてきた。「いちまいのおさら」は完全予約制で、楽しむためには前もっての連絡(0901799713321)が必要である。

検察庁法「改正案」

市民らが抗議

検察幹部の定年を65歳に延長し、内閣の判断で更に延長することの出来る検察庁法「改正案」の強行採決の動きが強まるなか、県内各地で同法「改正案」に抗議するスタンディングとリレートークが行われました。

国会で野党は、今回の「改正案」は、現行検察庁法で63歳となっている検察幹部の定年を、閣議決定で強引に延長したため、その後につつま合わせに後付で変更しようとするものだと追求。とりわけ、政権に近いとされる東京高検黒川検事長の定年が違法な閣議決定で延長されたこともあり、憲法の三権分立や法の支配を壊すものとして、ツイッターデモをはじめ多くの国民が反対の声を上げていました。

黒川検事長は賭麻雀で5月22日に辞任。政府・与党は、検察庁法「改正案」を含む国家公務員法改正案(東ね法案)の今国会での成立を断念しました。

写真上は野党共闘による米子市での抗議行動(マイクを握るのは国民民主党の湯原副代表)、中は倉吉市で中部九条の会と湯梨浜9条の会、下は鳥取市で鳥取市9条の会など



コロナ終息後は共生の社会に

『さくら共同作業所』は、難病を対象として2001年に始めました。当時、難病は福祉作業所の対象ではありませんでしたが、大谷輝子県議会議員が議会で取り上げてくださり、片山知事は「国がやらないのであれば県が」と、補助金給付が実現しました。しかし、効率を求める国の制度と、それに追従する平井知事のもと、再び無認可(補助金無し)になりました。企業の下請けではなく、自主製品(地域の人に必要とされるもの)を大切にしており、今は布マスクを作っています。コロナが終息したとき、競争ではなく共生の社会になっていることを願っています。(さくら共同作業所 森本みどり)

